

オムロン株式会社 2019年度 3Q決算
投資家様向け電話説明会 質疑応答（サマリー）
（2020年1月29日）

<全社業績、経営・戦略>

Q：売上総利益率が前年から改善している理由は？

A：制御機器事業のソリューション売りが奏功している。

また社会システム事業の売上平準化の取り組み、自助努力の効果、
環境事業の標準設計、売価にこだわった営業などの自助努力の取り組みが効いている。

Q：通期見通しから3Q累計実績を引くと、4Qの営業利益は3Qから大幅減少となるが、
何か特殊要因を想定しているか？

A：現時点では説明内容以外に特殊要因は想定してない。

3Qに慎重な経費運営をしたこともあり、4Qに経費は増える。

一方で為替が現在の水準のまま続くと業績の押し上げ要因になる。

Q：10月に発表した自己株式取得が進んでいない理由は？ 何か方針変更があったのか？

A：これまでの方針に変更はない。取得期間を1年に設定しているので、この中で機動的に買い付けを実行していく。

Q：中国における新型コロナウイルスの拡大による、事業への影響は？

A：現時点で事業への影響は見えていない。

武漢に拠点はないが、上海・深センの工場は政府からの要請により旧正月休暇を2/9まで延長。

今後さらなる延期要請の可能性もある。引き続き動向を注視し、慎重に対応していく。

<制御機器事業 関連>

Q：中華圏は2Qから3Qにかけて売上が減少しているが、回復の兆しが見えているのか？

A：月別では売上が徐々に回復しており、12月はプラスに転じている。

半導体やスマートフォン関連、2次電池などデジタル業界が回復傾向にあるものの、
自動車業界は厳しい状況が続いている。

Q：自動車投資の現状と今後の見方について

A：グローバルでガソリン車向け投資が一段と悪化。回復の兆しはまだ見えていない。

一方、EV/ADAS関連は想定よりは弱いもののガソリン車に比べると堅調。

Q：中華圏は、数年前のようなデジタル業界の大幅回復を期待できるか？

A：デジタル業界を中心にお客様からの引き合いは増えているが、数年前のような大幅回復は想定していない。

<ヘルスケア事業 関連>

Q：3Qは営業利益率が14%と大きく改善しているが、今後も維持可能な水準と考えてよいか？

A：高付加価値商品の売上拡大などによる売上総利益率の継続改善の効果が効いている。

また3Qは慎重な経費運営によるプラス効果もあった。投資しながら売上拡大を目指しているので、今後の水準としてはもう少し低めを想定している。

Q：ウェアラブル血圧計の業績へのインパクトについて教えてほしい

A：売上へのインパクトは大きくない。これから育てていくというフェーズ。

今後どのようにエコシステムを構築していくかがキー。医療機関や保険会社との連携によって市場を創っていく。